新潟商工会議所 政策委員会　人口減少社会において選ばれる新潟市の未来図に向けた提言［概要版］

基本的な考え方

新潟市においても、人口減少は加速度的に進むことが予測されており、特に生産年齢人口の減少は労働力不足のほか、税収減による公共インフラの維持・補修財源や公共サービスの量的・質的な低下が懸念される。

こうした中、老若男女を問わず、行ってみたい、住んでみたいと思わせる都市の魅力向上が肝要であり、そのためには、新しい産業の創出や多くの起業家の輩出などによる経済活力の高まりと、誰もが生きがいを持って生活や仕事ができるまち(都市)を目指す必要がある。

当委員会では、2030 年頃の新潟市中心部の未来図を想定し、ビジネス面、観光面、居住地などとして選ばれる都市のあり方について提言する。

新潟市の現状と課題

1. 開業率の低迷と産業活力の低下
- 新潟市の開業率は 5.9%、20 政令市中、17 位(H28 年度)

2. 国際交流都市としての拠点性
- MICE において朱鷺メッセはフル稼働状態
- 新潟県のパスポート保有率は 14.3%で全国 35 位
  出国率は 5.7%で全国 38 位と低い(H29 年度)

3. 若者を中心とした人材の流出
- 県内大学・短大への進学率は約 4 割（横這い）、6 割が県外
- 大学・短大卒業生の内、県内企業からの内定は 88%、
  しかし実際の就職率は 55%（H29 年度）
- 留学生の県内就職者数は毎年 60 人前後（横這い）
  （留学生数は 1,621 人／H29 年度）

4. 新潟市の魅力
- 「同一性を感じるエリアの広がりやキラーコンテンツがない」という意見
- ブランド総研による魅力度順位は 213 位/1,000 市町村(2017 年)

5. 超高齢化の進展と健康
- 新潟市民の平均寿命は全国平均を上回っているが、健康でない期間は全国平均を男女ともに上回っている

6. 市街地の拡大と交通アクセス
- コンパクトシティが叫ばれる中、現在も市街地は拡散
  （2010 年:103.44k ㎡，2015 年: 104.16k ㎡）
- 車依存度が高く、一人当 CO^2 排出量は政令市中でワースト 1
  （運輸部門 2010 年：1.17 t 、2014 年：1.89 t ）

（※新潟市の数値がないものは、参考までに新潟県の数値を引用）

提言１　企業活動によって経済活力が活発化しているまちを目指す

(1) 起業・開業できる環境が整備され、事業継承がスムーズで活気のあるまち
①大学等における起業家の教育･研究センター等の開設推奨及び学生と起業家が触合える環境づくり
②空き店舗への低家賃での入居や税額控除などによる支援
③クラウドファンディングなどの開業資金調達手段の多様化を促進
④後継者不在の企業やオンリーワンの付加価値を持った企業のデータベース化と事業承継の推進

(2) 中核企業が地域を牽引しているまち
①産学官金が一体となった中核企業育成と、IT 技術分野をはじめ先進的外資企業の誘致
②セールス力向上のためのコーディネーター登用と人材育成
③儲かる農業の確立と複合型生産構造への転換、県内外からの就農希望者の受け入れ拡大
④海外取引における企業や地域商社の支援と商談・展示会等における“オール新潟”の推進、GAP・HACCP、地域団体商標や地理的表示（GI）等の認証制度に対する企業の意識啓発と認定品目の拡大、並びにブランディングの推進（※H30 年 3 月国際貿易委員会提言から一部引用）

(3) 社会基盤を支える経済循環が機能しているまち
①地元大学のコア技術を活かした国の地域イノベーション・エコシステム形成プログラム事業の採択・実施に向けた支援と、地域未来投資促進法に基づく申請や採択事業に対する協力・支援
②再生可能エネルギーや社会基盤整備、県内総生産の拡大等に結びつく公共投資効果を、住民サービスや社会保障等に還元・循環できる仕組みづくり

提言２　国際交流拠点として都市間のアクセスやゲートウェイ機能に優れ、環境面において先進的なまちを目指す

(1) MICE の推進で産業情報が集積しているまち
①新潟の優位性が活かせる国際的な MICE を誘致し、新製品・技術等の最新産業情報の収集を推進
②古町をはじめ中心部のまちなみ風情を演出するなど、アフターMICE 等を想定した夜間や冬季間の市内滞在率を向上させる仕組みづくり

(2) 環境面で先進的なまち
①公共施設等における再生可能エネルギー設備の直接導入と、行政業務や農林水産分野等において生産性向上のための ICT・AI の積極的な導入、並びに AI システム等をプログラミングできる人材の育成
②環境モデル都市として、FCV（燃料電池自動車）や水素ステーション設置を推奨し、CO^2 フリー及び AI 搭載による公共交通（自動運転）を整備促進
③公共インフラ整備等において PFI・PPP 方式を採用し、持続可能な社会資本整備を推進

(3) 新潟空港、新潟港及び新潟駅等が活性化し、インバウンドとアウトバウンドが活発化しているまち
①新潟空港と他県空港を入出国に活用した広域的な観光周遊ルートの開発とインフルエンサーといわれる海外で影響力のある人物との連携、また、酒の陣をはじめとする大規模イベントや体験型観光の創出・拡充、県内市町村のイベントや観光資源と連携した観光開発と戦略的広報の推進、さらに多言語コールセンター創設に向けた事業推進
②若者や学生をはじめとする県民のパスポート取得に対する支援と、小中学生時期の海外旅行機会の創出・拡充

提言３　若者が早くから地元企業に関心を持ち、優秀な人材が産業を担っているまちを目指す

(1) 子供たちが早くから地元企業に触合い、若者が地元に残るまち
①小・中・高等学校の授業で受入先企業の拡充とカリキュラムの充実
②保護者と学校、企業が早くから連携し、子供たちの個性を踏まえた就職支援

(2) 大学の魅力が向上し、U・I・J ターンが活発なまち
①国の支援制度活用による新規プロジェクトの推進と、まちなかサテライトなどでの学生と市民との交流機会の創出
②全国移住ナビや U・I・J ターン関連 HP、SNS へのアクセス者等に対してニーズに合った就職情報の提供と徹底したフォローアップ体制の構築
③県内外の学生・大学等のインターンシップニーズを早期に把握し、マッチングをコーディネートする中間支援機関の設置

(3) 留学生など外国人材を活用しているまち
①AI（多言語対応ソフト等）を活用した就職マッチング支援と、留学早期から県内企業と接触する機会の創設・拡充
②留学生ネットワークの構築と、帰国した留学生を現地マネージャーとして活用する仕組みづくり

提言４　訪れた人が、住んでみたくなる魅力的なまちを目指す

(1) シンボリックで世界的に魅力的な空間のあるまち
①新潟西港から萬代橋、さらに古町周辺地区を中心とする新潟島の景観を世界的に魅力的な空間へ創造
②仮想現実（VR）、拡張現実（AR）、SNS 等を活用したプロモーション活動を推進
③古町などでまちなみ風情を演出するなど、夜間や冬季間の市内滞在率を向上させる仕組みづくり（一部再掲）

(2) まちなかに学生や若者が集い、まちづくりや商業等の担い手及び起業家が誕生し、各種シーズを創造し続けるまち
①小・中学校跡地を大学のサテライト施設等に転用するなど、学生や若者が集う仕掛けづくり
②入船地区などを、各種シーズを創造する産業創造拠点エリアに指定し、人・企業・情報等が集積する場所を創設

(3) 訪れた人にやさしいまち
①多言語案内を含めたユニバーサルデザインの普及推進
②市民・業界への“おもてなし”意識啓発と AI・VR の活用

提言５　市民が生きがいと誇りを持って生活できるまちを目指す

(1) 市民が生きがいと誇りを持てるまち
①伝統文化や新しいまつり・イベント等の創出による老若男女の拠り所となるコミュニティの形成と、U・I・J ターンに繋げるための情報発信
②ボランティア等の活動に気軽に参加できる仕組みづくり

(2) 健康寿命が長く高齢者が元気なまち
①市民農園の貸与や各種サークル活動などが一元的に管理・データベース化され、仲介・斡旋してくれる体制の充実
②バスシニア割の継続とともに、高齢者の外出に繋がる市民プロジェクトの支援と活動内容や成功事例の共有化
③未来ポイント制度の拡充と、インセンティブを循環・活用できる相互扶助の仕組みづくり

(3) 歩いて生活ができるまち
①病院や行政、商業施設等へ容易に移動できるまちの推進
②トランジットモールなどでの人にやさしい環境整備と低廉な公共交通体系の推進